



～文化遺産を訪ねて歩こう!!～

昨年4月号からことし3月号までの上尾歴史散歩は、『あげお歴史探検マップ』をもとに、市内の文化遺産を訪ね歩く市内の散策コースを紹介いたします。1～3月は、上尾・上平地区周辺のコースを巡ります。

二ツ宮氷川神社の「氷川神社本殿彫刻」

- 4月
- 5月
- 6月
- 7月
- 8月
- 9月
- 10月
- 11月
- 12月
- 1月
- 2月
- 3月

今に伝わる祈りの文化

荒川周辺に花開いた文化

人と文化が繋いだ町

街道に刻まれた歴史

距離	時間
③東町会館	1.02km ↓ 12分
④氷川神社	1.25km ↓ 15分
⑤密蔵院	

★時間は、歩いたときの目安の所要時間です

鎌倉街道沿いの文化財を巡る

「東町会館」③の前を東西に延びる古道は、「鎌倉街道羽根倉道」と呼ばれる街道である。鎌倉街道は、鎌倉時代には幕府、室町時代には関東支配のための鎌倉府が置かれ、政治上・軍事上の重要拠点であった鎌倉（神奈川県）と各地をつないでいた道である。羽根倉道は鎌倉街道の枝道で、鎌倉と上野国（群馬県）方面を結んだ上道から所沢市付近で分かれ、羽根倉橋（志木市・さいたま市桜区）付近を経由して、さいたま市北区別所から上尾市西宮下に入っていた。東町会館から東に進み芝川を渡る橋は、街道に由来して「鎌倉橋」と呼ばれている。

二ツ宮氷川神社を後にして鎌倉街道を上平地区平塚へと進むと、「密蔵院」⑤に到着する。境内にある薬師堂には、市指定文化財である「日光・月光菩薩立像」と「十二神将立像」がある。「日光・月光菩薩立像」は、本尊の薬師如来立像と共に「薬師三尊」を構成し、それを守護する眷属（仏・菩薩につき従うもの）として十二神将立像も堂内に安置されている。日光菩薩は特に古い仏像で、平安時代後期の作と考えられており、市内で確認されている中で現存する最古の仏像である。十二神将立像は、いずれも天衣甲冑を身に付けた武将の姿で、子神から亥神までそれぞれ十二支を冠に戴いている。表情豊かでさまざまな姿をかたどっている優品である。「日光・月光菩薩立像」「十二神将立像」は共に、奥州磐城平藩（福島県）の内藤家より納められたものと伝えられている。

鎌倉橋から少し進むと、二ツ宮「氷川神社」④の鳥居が見えてくる。上尾宿、上尾村、上尾下村3村の総鎮守であったこの氷川神社は、元々男体社、女体社に分かれており、「二ツ宮」という地名としてその名残がある。明治40年代の政府による神社合祀政策の流れの中で、女体社は上尾宿内の鉾大神宮へ合祀されて氷川鉾神社となり、男体社が現在の二ツ宮氷川神社となった。参拝者が訪れる拝殿の背後にある本殿には、市指定文化財である彫刻（写真）が施され

ている。幾何学的な模様や中国の故事を題材とした優れた彫刻は、本殿の周囲に巡らされている瑞垣から垣間見ることが出来る。

次号では、密蔵院から北上して、上平地区の中心へと進んでいこう。

（上尾市生涯学習課）